

D ; 私がみた中国人の驚嘆すること (中華思想)

第 29 計 ; どんな場面でも生き抜き方を知っている。(中華思想その 1)

— 中国人の生活の知恵は兵法 36 計にあり —

この項目は説明が長いので章別で書きます

第一章 ; 日本人の価値観は “正論” 中国人の価値観は “生論”

私がこの 10 年間の中国との交流で一番中国人が凄いと驚嘆したことは、中国人は “生論 (人生の生き抜き方)” を知っていることが解ったことです。私は日本人の価値観の “正論 (正義の理論)” が中国人の価値観の “生論” に負けるのではと思うのであります。“正論” だけでは中国では生活できないからです。ところで、韓国ドラマに嵌る日本女性は多いが、中国ドラマに嵌った日本人は数少ないと思うのであります。男性の私が嵌りました。こういう日本人は少ないかも知れません。何故なら、私が先祖から教えられた “愛情” と “正義” が中国人に通じなかったからであり、その “義憤心” が逆に私を中国の虜にさせたのかも知れません。“生論” を理解するには “兵法 36 計” を理解しなければならぬと思います。

第二章 ; “兵法 36 計”

日本人には “孫子の兵法” が有名であるが、“兵法 36 計” は紀元前 5

世紀から三国時代までの約 800 年間の“戦いの故事”を 17 世紀明末清初の時代に纏められたたよう、中国民間では兵法書として世界的に有名な“孫子の兵法”よりも流通し、日常生活でも幅広く流用されています。私はその事実を中国と交流して 5 年程たってから、中国人から教えられました。そして同時に独学で中国語の学習を始めたのであります。

兵法は戦術、戦略や政略といった政治・外交まで幅広く使える技法です。正直に真正面からぶつかるだけでは、平和を望むのは難しいものがあります。また、正々堂々とぶつかるにしても、相手が投げる変化球を見極める事ができれば、更なる手がうてます。まさに、“将心比心（以心比心）”で“心比べ”、“腹の探り合い”であります。いくら民主主義の日本でも、“腹の無い人”はリーダーになるものではありません。国民が迷惑します。

この兵法は基本中の基本で、実際は複数の兵法を組み合わせてたり、裏技を使ったりしてゆきます。まず自分の戦況を分析判断すると、6 通りの場面があると教えます。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 ; 勝戦計 ; こちらが有利な時の戦略 | 2 ; 敵戦計 ; 互角の勝負 |
| 3 ; 攻戦計 ; 傷が少なくうまく攻める。 | 4 ; 混戦計 ; 乱戦 |

5 ; 併戦計 ; 味方にも備えをする。 6 ; 敗戦計 ; 状況不利

その状況に応じて六個の計略(戦略)があるのです。 $6 \times 6 = 36$ です。

詳しくは 下記ホームページを参照してください。

<http://www4.ocn.ne.jp/~tishiki/hyohou36.html#sono2>

勝戦計 こちらが有利な時の戦略		攻戦計 うまく勝つ為の戦略		併戦計 味方に対しての戦略	
第一計	瞞天過海	第十三計	打草驚蛇	第二十五計	偷梁換柱
第二計	困魏救趙	第十四計	借屍還魂	第二十六計	指桑罵槐
第三計	借刀殺人	第十五計	調虎離山	第二十七計	佯痴不癩
第四計	以逸待勞	第十六計	欲擒姑縱	第二十八計	上屋抽梯
第五計	趁火打劫	第十七計	拋磚引玉	第二十九計	樹上開花
第六計	声東擊西	第十八計	擒賊擒王	第三十計	反客為主
敵戦計 同じ力の敵に対する戦略		混戦計 乱戦時の戦略		敗戦計 負けている時の戦略	
第七計	無中生有	第十九計	釜底薪抽	第三十一計	美人計
第八計	暗渡陳倉	第二十計	混水摸魚	第三十二計	空城計
第九計	隔岸觀火	第二十一計	金蟬脱殻	第三十三計	反間計
第十計	笑裏藏刀	第二十二計	関門捉賊	第三十四計	苦肉計
第十一計	李代桃僵	第二十三計	遠交近攻	第三十五計	連環計
第十二計	順手牽羊	第二十四計	佯道伐虢	第三十六計	走为上

“正論”は一つであるが、“生論”は最低六つあるという事です。

私は、兵法 36 計は「将棋」と「囲碁」それに「麻雀」が混ざっているように思いました。

日本人は「将棋・囲碁・麻雀」は、一般人には「駆け引きのゲーム遊び」であり、仕事、社会生活の信頼関係における対人関係には「駆け引き」を持ち込まないが、

中国人は逆に「駆け引き」を日常生活に常に持ち込んでいるので日本人と話がかみ合わないとは推察しております。日本人は中国人との心の深い信頼関係が非常に築きにくいといえます。

第三章；やっと日本と中国の友好的交流を見つけました。

中国の“兵法 36 計”を理解した上での中国との友好的交流は、新渡戸稲造の書籍“武士道”で交流すればよいと思います。

私が憚（はばか）りながら新渡戸稲造さんの「武士道」に補足いたしますと、

① 武士道精神には日頃は目立たず努力を常にし、危険に対する備えも怠らず、「弱気を助け強気を挫（くじ）く」心もあり、「弱者が強者にでも使用する“恫喝”」ではなく、「真の強者が偽の強者に対して義憤心でいう“一喝”」がある。

② 武士の行動指針は「風林火山（ふうりんかざん）」である。甲斐の戦国大名・武田信玄の旗指物（軍旗）に記された。

「疾如風、徐如林、侵掠如火、不動如山」

（疾（と）きこと風の如く、徐（しず）かなること林の如く、侵（おか）し掠（かす）めること火の如く、動かざること山の如し）

それで私は中国人との交流で仮に中国人五人と交流するとすると、一人は「積極的交流」、三人は「解放＝消極的交流」、一人は「追放」という結論に達したのです。

新渡戸稲造の書籍 “武士道(目次)” 私の過去の整理資料

<p>第一章 武士道とは何か</p>	<p>真のサムライは「誠」に高い敬意を払う</p>	<p>第十章 武士は何を学び、どう己を磨いたか</p>	<p>女性にもとめられる立居振舞</p>
<p>人の道を照らしつづける武士道の光</p>	<p>武士道と商人道とは何が違うか</p>	<p>行動するサムライが追求した「品性」とは何か</p>	<p>妻女の務めとは何か</p>
<p>武士道は「騎士道の規律」である</p>	<p>誠とは実益のある徳行</p>	<p>武士道は損得勘定をとらない</p>	<p>自己否定なくしては「内助」の功はありえない</p>
<p>人々の心に刻みこまれた掟</p>	<p>いつでも失わぬ他者へのあわれみの心</p>	<p>武士道は無償、無報酬の実践のみを信じる</p>	<p>家庭において重んじられた女性</p>
<p>壮大な倫理体系のかなめの石</p>	<p>第六章 「礼」人ともに喜び、人とともに泣けるか</p>	<p>第十一章 人に勝ち、己に克つために</p>	<p>第十五章 「大和魂」— いかにして日本人の心となったか</p>
<p>第二章 武士道の源をさぐる</p>	<p>礼とは他人に対する思いやりを表現すること</p>	<p>サムライは、感情を顔に出すべからず</p>	<p>一般大衆を引きつけた武士道の徳目</p>
<p>仏教と神道が武士道に与えたもの</p>	<p>礼を守るための道徳的な訓練</p>	<p>なぜ「寡黙」がよしとされるか</p>	<p>一般大衆を引きつけた武士道の徳目</p>
<p>武士道の源泉は孔子の教えに有</p>	<p>優雅な作法はカを内に蓄えさせる</p>	<p>心を安らかに保つために</p>	<p>サムライは民族全体の「美しき理想」</p>
<p>武士道は知識のための知識を軽視する</p>	<p>礼儀は優美な感受性として表われる</p>	<p>第十二章 「切腹」-生きる勇気、死ぬ勇気</p>	<p>「エリート」の栄光、憧れ、そして「大和魂」</p>
<p>武士道の基本原理とは何か</p>	<p>第七章 「誠」-なぜ「武士に二言はない」のか？</p>	<p>腹切りの”ハラ”は何を意味するか</p>	<p>サクラは「大和魂」の典型</p>
<p>第三章 「義」-武士道の光り輝く最高の支柱</p>	<p>第八章 「名誉」-苦痛と試練に耐えるために</p>	<p>切腹は一つの法制度、儀式典礼である</p>	<p>第十六章 武士道は甦るか</p>
<p>「義」は「勇」と並ぶ武士道の双生児である</p>	<p>不名誉はその人を大きく育てる</p>	<p>切腹はどう行われたか</p>	<p>武士道は日本の活動精神、そして推進力である</p>
<p>「正義の道理」こそ無条件の絶対命令</p>	<p>武士道はなぜ忍耐強さの極致に達したのか</p>	<p>武士道における生きる勇気と死ぬ勇気</p>	<p>自己の名誉心、これが日本の発展の原動力</p>
<p></p>	<p>名誉はこの世で「最高の善」</p>	<p>「四十七士」の仇討にみる二つの判断</p>	<p>日本人以上に忠誠で愛国</p>

<p>第四章 「勇」-いかにして肚を練磨するか</p> <p>「義を見てせざるは勇なきなり」</p> <p>平静さに裏打ちされた勇氣</p> <p>第五章 「仁」人の上に立つ条件とは何か</p> <p>民を治める者の必要条件は「仁」にあり</p> <p>徳と絶対権力との関係</p> <p>「武士の情け」に内在する仁</p>	<p>である</p> <p>第九章 「忠義」-人は何のために死ぬるか</p> <p>日本人の忠義とは一体何か</p> <p>命令に対する絶対的な従順が存在した</p> <p>武士道では個人よりも国を重んじる</p> <p>サムライの真の「忠義」はここにある！</p>	<p>かくして「刀は武士の魂」となった</p> <p>第十三章 「刀」-なぜ武士の魂なのか</p> <p>刀は忠誠と名誉の象徴</p> <p>鍛冶は重要な宗教的行為だった</p> <p>武人の究極の理想は平和である</p> <p>第十四章 武士道が求めた女性の理想像</p> <p>家庭的であれ、そして女傑でもあれ</p>	<p>的な国民は存在しない</p> <p>武士道による無言の感化</p> <p>第十七章 武士道の遺産からなにをまなぶか</p> <p>武士道はその姿を消す運命にあるのか</p> <p>名誉、勇氣、そして武徳のすぐれた遺産を守れ</p> <p>不死鳥はみずからの灰の中より逸る</p> <p>武士道は不滅の教訓である</p>
--	--	---	---

現在、日本政府がよく使う“戦略的互惠関係”ほど、曖昧で意味不明な日本語はないと思います。

私が小学5年生レベルに説明するとしたら、「日本と中国は元来（もともと）同じ民族なので、現在のお互いの価値観の違いを修正しながら、将来も友好的に接したい」という日本語の表現を使用いたします。

少しレベルを上げるなら、「日本と中国は、歴史的に見てかなり密接な関係があり、そこには“尊敬”もあれば“敵意”もありました。未来に向けて国境の垣根をこえて国民の為に“協働”いたしたい。」といえよと思うのであります。

(敢て話をとぼします。私は 10 年間中国を探索いたしました。自慢する訳ではありませんが、ゴルフは 48 歳から初め三年でハンデ 10 迄行きました。しかし日本の社会的有名な大会社の友達が縛れた社会生活を送っているのに対し、私がゴルフや中国探索等自由に生きて来れたのは、ひょっとしたら家内のお蔭かもしれないと 65 歳なって感じ始めております。それは日本人も中国人も同感のようです。)

(現在、日本男子の色弱は 5% です。私は血族結婚の子孫で、赤緑色弱です。従って私は日本人の少数民族であるかもしれないと思っています。しかし私が中国に行くと私は少数民族では無くなります。なぜなら漢民族は歴史的に混血と血族結婚が多いそうです。そういう意味で、私は中国では少数民族ではなく、大民族の一員かもしれない。ただ私の心は童話の裸の王様がそのまま成人し、老人になってしまった。ということで少数派です。私は色弱ですが、小学生時代の 6 年間絵を習っていました。両親にも深く感謝しております。)

第四章；兵法 36 計の使い方の例示

とにかく表現できない程中国人は“生き抜き方”が凄いのであります。例えば日本企業の中国での採用試験（面接試験）の委員長として出席したとする。また、私が採用枠は 3 名と命令・指示を出していたとします。1000 人の応募者があった経験談をご披露いたしましょう。筆記試験の報告書を見ると成績がすごいのもあれば、全然駄目もあり面接試験では、採用枠は最終選考会「大学卒男女二名、高卒男女二名、中卒二名、このうち最終学歴は一名ずつの採用」が条件でありました。

私は、「貴方達は一体なにが出来ますか」と聞きました。まず大卒男子に聞くと「私は、コンピューターが出来る」と答えます。それで「エクセル、ワード・・・」、私は「出来ますね、ところでインターネットは出来ますか？」と聞くと「勿論」と言って中国のプロバイダーに繋げ

る。私が「よくできますね。」という自信満々で喜びました。彼は中国地方都市の大学で成績一番の生徒でありました。仕方なく、私は自らコンピューターを使い、エクセルで visual basic(マイクロソフトのプログラム言語で“男”の立場でボタンを作り、ボタンをクリックすると“I Love You”表示させたが、彼は返答できなかった。)彼は吃驚していました。それでコンピューター言語を教えてあげました。

次に大学の女性との面接、彼女の専門は労務管理で、私の専門外でありました。次に高卒男子の得意は太極拳であったので、私は彼と指相撲と握力比べをしました。彼は「参りました」と言いました。高卒の女性は、「私は刺繍です。私はこの工場に、仕事が終われば工場の壁いっぱいにして私が作った刺繍を飾りたい」と言います。つまり、この工場を“癒しの美術館”にするというのです。更に中学卒の男性はランプで私に挑んでくれました。“ページワン”というゲームです。これも私が圧勝しました。最後に中卒の女性は私に彼女の背中に乗れと言うではありませんか。これには私も相当驚きました。私を背負って部屋の中を歩くのであります。しかし二回位で私は自ら降りて「凄いですね」「何故私を背負ったのですか」と聞くと、「先生が中国で病気になったら私が背負って日本の奥さんのもとへ連れて行く」と答えました。

(体重 55 kg の 18 歳の女性が日本人である体重 75 kg の私をみんなの前で背負っ

たのであります。彼女の実家は農民で祖母・父・母・本人・弟の五人家族で父は崖から落ち半身不随、弟は中学受験で非常に家庭の経済状態が厳しかったことを記憶しております。）

“私が誰を採用したか”は多分ご推察とおりでと思います。まず採用の第一は上記女性三人であった。一番レベルの低い立場の人を先に雇用する場合、中国式平等原則に反します。つまり“面子”を立てなくてはならないのです。感情で採用してはならない。中国式平等原則による採用に関して申し上げますと、(私の心の発表は①中卒女性・②高卒女性・③大卒男性であるが)正式発表は「一般職」採用として①大卒女性・②高卒女性・③中卒女性と全部女性にしなくてはならない。それと(面子を立てる)「特別職」採用として大卒の男性を一名合計四人にしなくてはならないのであります。特別職にはプロ野球の選手契約のように、例えば「三年契約で成果をあげれば待遇は・・・する。」という約束も付帯します。

以上の採用エピソードは仮の話であるか、実際の話であるか、問題ではありません。

何故なら、日本人は「中国の兵法 36 計を学習しなさい」と重ねて言いたいのです。兵法 36 計の第 1 計“瞞天過海 (まんてんかかい)”に大きな嘘は嘘でないと書かれてありますから・・・。

昔、唐の皇帝太宗が、海を怖がって船に乗る事を拒んだ。

そこで張士貴という者が一計して、巨大な船に土を盛り、家を作ってここは陸地ですと騙して皇帝を招いた。そして皇帝が安心している間に海を渡ったという。

第一計から「騙し」の技であります。普段見慣れている物は、気付かれにくいということです。当たり前、常識と考えている事にこそ、嘘が隠されていることがあります。ある出来事について関心を持った時、一度それについての常識を疑ってみるのも大切でしょう。私が俯瞰的視点・俯瞰的思考・俯瞰的常識を唱えるのはこのことです。(常識はその人の学歴と経験の常識で私の常識とは違うからです。“経験・実績の格”と“品格と学歴の格”が少し違うのであります。)

中国人の“生き抜き方”は本当にすごい。中国人を採用する場合、感激の一番はないのであり、原則は実力一番でなくてはならないということです。この採用方法は武士道精神をもった日本の武士の英雄、宮本武蔵も坂本竜馬も理解できないと思われます。

「血筋一番か？、実力一番か？、尊敬一番か？」中国戦国時代の末期の“項羽と劉邦の戦い”で尊敬一番の劉邦が勝ち、前漢王朝を建てました。楚の国で血筋一番の項羽と美人の妻“虞（ぐ）美人”は城に立てこもったが「四面楚歌」の歌で自殺したのであります。

(現代中国では美人を美女と言う。自殺した虞美人の伝説はヒナゲシに「虞美人草」という異名がつく由来となった。)

(劉邦の妻呂后(中国四大悪女の一人)の時代は、宮廷では何かと親族間で血生くさい事件がよく発生した時代であり、呂氏一族も呂后の死後殺されることになった。) 中国三国志時代の血筋一番は呉の孫堅で、実力一番は魏の曹操で尊敬一番が劉備と思います。

思い出すに、死んだ母はよく私に「あほ位」と言いました。生きている叔母も「あほ位」という。また私の家内は私の友人が来たとき、「見て見て、またネクタイ二本している」と夫の恥を他人にいい、長女は「ズボンのチャックをあげろ」と命令するし、俯瞰的常識家の“あほ”になると彼女達の常識外の常識であるから、私は“あほの皇帝”になりました。日本語の“あほの皇帝”は中国語では“笨蛋皇帝(ベンダンホアンデイ)”というのを中国人でも日本人でも知っている人は少ないと思います。何故なら私が作った中国語だからです。「中国人の女性は上ばかり見ているのに、日本人の女性は何故下ばかり見るのか」と私は家内や長女に反論するのであります。彼女達には「ベンのbenはbengではないと解ってから私に意見して下さい」と言いたい。

読者の皆様には、中国人のみならず不肖私も凄い“生き抜き方”を実践しているとお気づき戴けていることと存じ上げます。

2010/10/24